

★2026年も、どうぞよろしくお願ひいたします。

参考まで



◎家読（うちどく）について

家読とは、「家庭読書」を略した言葉です。学校で定着していた朝読書を家庭にも広げ、家族で感想を話し合ったり、本をすすめあったりすることで家族のコミュニケーションを深めようという、温かい読書運動として、2006年から全国の自治体、学校、図書館などで広がっていきました。やり方に決まりはなく、基本は、読んだ本について家族で話すということです。週1回で、絵本から始めてみるなど、各家庭に合ったやり方で無理なく家読を楽しんでもらいたいです。

子どもたちが考えた
「家読の約束」

- ①家族で同じ本を読もう
- ②読んだ本で話そう
- ③感想ノートをつくろう
- ④自分のペースで読もう
- ⑤家庭文庫をつくろう

（株式会社トーハンさんの、うちどく（家読）ホームページより）

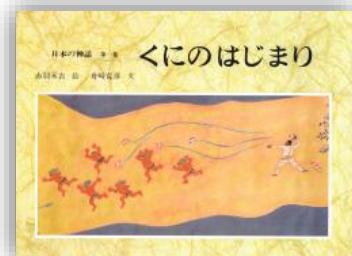
◎読書賞について

今年度も（R7.4月～R8.1月末まで）、学校で一番多く本を読んだ人に情報館から「読書賞」の賞状を授与したいと思います。対象は、**小学校は下学年1人・上學年1人、中学校は1人**です。

読書賞受賞者には、情報館で推し本を紹介していただきます。 今年度読んだ本の中で心に残る1冊を選んでいただき、情報館の「**R7年度読書賞受賞者の本棚**」で紹介し、展示、貸出しをします。市内の学校から選ばれた読書賞受賞者の推し本を、多くの方に見ていただきたいと思いますので、ご協力いただけますと幸いです。

★読書賞に関する詳細は、メールでお送りいたします。

◎日本の神話 第一巻『くにのはじまり』 赤羽末吉/絵 舟崎克彦/文 あかね書房



年のはじめに神話に触れてみるのはいかがでしょうか。

古事記をもとにした絵本です。形が定まらない世界から、島々を生み、日本という国が形作られていく物語を描いています。古事記というと難しいと思われるかもしれません、聞いたことがある、実は身近なお話かもしれません。私はこの本を、小学校高学年から中学生に読み聞かせをしています。

読み終わると、子どもたちは「天照御大神、掛け軸に書いてあった」「桃には力があるから桃太郎なのか！」などと瞳を輝かせて言います。



黄泉の国で、追ってくる鬼から逃げる伊邪那岐は、桃や筍に救われます。桃には、魔除けや不老長寿の意味があるそうです。桃太郎や桃の節句など、昔から桃には靈力があると信じられてきました。筍は、わずか10日で竹に成長し、また地下茎で広がっていくことから、生命力や子孫繁栄の意味もあるそうです。二人が生んだ35柱もの神々は、あらゆるものに神が宿るという八百万の神々です。

どこかで触れたことが、お話を聞くことでつながると、腑に落ち、更に好奇心が湧いてくるようです。小学校の高学年から中学生は自分や物事のルーツに興味を持ち始める頃ですので、神様によってどのように日本という国が成り立っていったのかという物語に、ロマンを感じ興味津々で聴いています。初詣で神社を訪れた際にも、祀られている神様の物語を知ると、今までと違った心持ちになるかもしれません。



この後、第2巻『あまのいわと』へと続いていきます。赤羽末吉さんの格調高い絵とともに、古事記の壮大な世界を是非味わってみてください。

★情報館1階おはなしの部屋、昔話のコーナーにあります。

